

震災の経験を学び合う「EARTH MANUAL PROJECT展」 in マニラ

2015.01.14

いいね! 1 ツイート 0 G+1

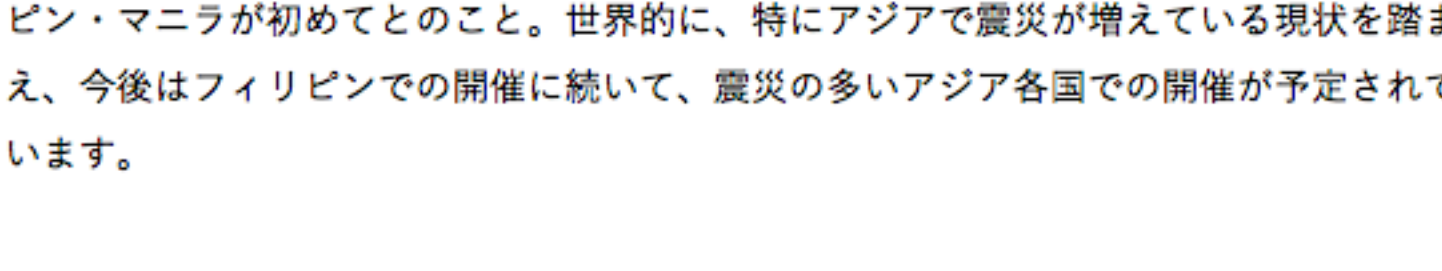
2014年11月7日、フィリピンのマニラにあるアヤラ美術館にて、国際交流基金マニラ日本文化センターの主催による震災に関する展覧会「EARTH MANUAL PROJECT展」のオープニングレセプションが行われたので参加してきました。



アヤラ美術館正面

EARTH MANUAL PROJECTは、優れた防災活動について多くの市民が共有し、連携し、相互学習を行うためのプラットフォームを作るプロジェクトです。この展覧会では、アジア各国で広がっているユニークな防災活動や、アーティストによる災害をテーマにした作品を分かりやすく紹介しています。

この日のオープニングでは、このプロジェクトの仕掛人であるデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）の副センター長・永田宏和さん、展示プロジェクト「失われた街」模型復元プロジェクトを手がける槻橋修さんによる展覧会の解説がありました。



解説によると、もともとは去年の10月に開催されたのが最初で、海外での開催はフィリピン・マニラが初めてのこと。世界的に、特にアジアで震災が増えている現状を踏まえ、今後はフィリピンでの開催に続いて、震災の多いアジア各国での開催が予定されています。

神戸で紹介された23のプロジェクトの中から10プロジェクトをよりすぐり、さらに、今回特別にフィリピンのアーティストによる1作品を追加した、計11のプロジェクトが展示されています。



災害発生時の救援活動で実際に使われた資材を再利用するなど、展示方法には工夫がなされています。



実際に震災時に援助に使われた布が使われています。

展示の一部を紹介してみましょう。「イザ！カエルキャラバン！」は、子供たちが人形を使ってゲーム感覚で、「消火」「救出」「救護」などの防災救助の訓練を学ぶというプロジェクトです。

これは日本だけでなく、フィリピンやインドネシアを始めとするアジアでも既に実施されています。訓練に使われる道具には地域性が出ていて、たとえばインドネシアでは、バティックとよばれる伝統的な布が使われていました。

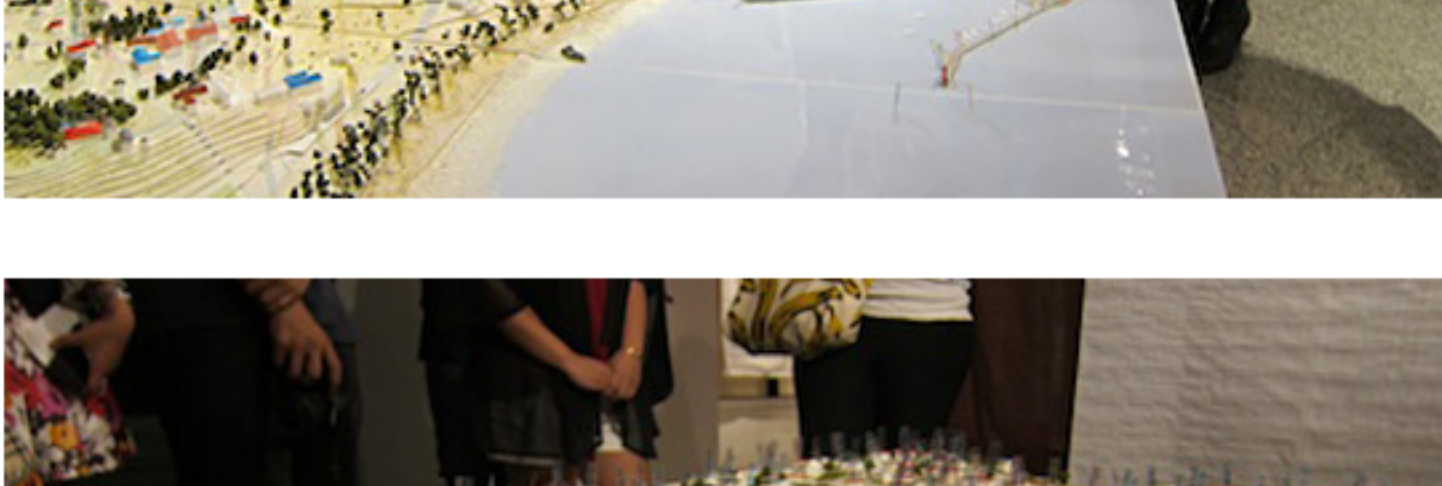


このプロジェクトが世界各国で開催されている様子が紹介されています。

会場でも際立つ模型がありました。槻橋修さんの「失われた街」模型復元プロジェクトです。これは、震災で失われた街を模型で復元することでふるさとを失った人たちの心のケアを試みるというものです。

実際に街に住んでいた人たちの手によって作られた街の模型は、上から見下ろすことができます。ミニチュアで再現された建物のカラフルな屋根の色は、元住人らの記憶をたどって塗り分けられています。

模型に顔を近づけてみると、文字の書かれた旗がところどころに立っているのが分かります。ある旗には、「この辺で泳いだ」と子供の字で書かれたものが見えました。旗をさした人がそこで何をしたか、その記憶が書かれています。今はもう、泳いで遊べないかもしれないその場所。その震災被害状況が手に取って分かるようで、胸が苦しくなりました。



フィリピンの展覧会に特別に招待されたフィリピン人アーティスト、Dan Matutinaさんの作品は、昨年フィリピンを含むアジア各国に大きな被害をもたらした台風ハイエンがテーマになっています。実は、彼自身もこの台風の被害を受けた1人でした。

実際に災害を経験し、なにかアーティストとして復興支援に協力したいという思いがあり、今回の展覧会への参加が実現しました。Danさんは、台風でバラバラになってしまった住民達の思い出の品を、樹脂で閉じ込めて家具やインテリアにし、アート作品として表現しています。

普段よく使う家具の一部に思い出の品を閉じ込めることによって、台風の被害を忘れないという思いがあります。

Danさんの作品



館内の展示についての解説がひと通り終わったところで、KIITOの永田さんに、展覧会を開催する目的についてお話を伺いました。

「日本、フィリピン、インドネシア、タイなどのアジア各国は、どこも同じく災害大国です。そして、年々被害による被害状況は酷くなっています。国などが支援できる防災もありますが、人まかせではなく、私たち自身が防災への理解を深めることができたというのが、このプロジェクトの始まりです。

実際、日本では災害教育は浸透しているものの、東南アジアでは災害教育はほとんど存在していないに等しい状況です。それはよくも悪くも、『辛いことは笑って忘れよう』という考え方があるからなのです。

でも本当に大切なのは、忘れるのではなく、次の震災に備えることです。辛い災害の経験を各国ともに共有して、互いに学びあうのが各展示の目的です。展示を見てくれた人たちが、これなら私にもできる、というプロジェクトの一つでも見つけて、アジア各国に災害対策が浸透していくことを願っています」

実際に、日本での展示が元で、タイで既に実施されているプロジェクトもあるとのこと、浸透の兆しが見えてきています。

展覧会では各プロジェクトの展示だけでなく、Danさんと永田さんらによる「失われた街」プロジェクトに関するトークイベントも開催される等、参加者がプロジェクトについてより深く知ることができる機会もありました。

クリエイティブ+防災という不思議な組み合わせにより、防災がより身近に感じられ、楽しく学ぶことができるとも興味深い展覧会でした。

企画名	EARTH MANUAL PROJECT展
日時	2014年11月8日（土）～12月7日（日）
会場	アヤラ美術館
主催	国際交流基金マニラ日本文化センター（国際交流基金アジアセンター事業）
共催	アヤラ美術館、デザイン・クリエイティブセンター神戸、NPO法人プラスアーツ
URL	http://www.earthmanual.org

中村綾花：フランス・パリを拠点に活動するフリーライター。著書は、世界で婚活の旅しながら恋愛・結婚事情をレポートした「世界婚活」（朝日出版）。有料コンテンツ・サイト「cakes」にてパリの本当の日常をレポートする「すっばんぼんパリ」連載中。<https://cakes.mu/series/3055>